

バイオフィリア リハビリテーション学会 第9回大会ご案内

平成17年8月6日(土), 7日(日), 9:00 開場

場所: 慶應義塾大学環境情報学部大学院棟

大会会長 福井 圀彦

介護老人保健施設湘南の丘施設長

バイオフィリア リハビリテーション学会名誉会長

神経・筋促通法の回顧と新たなる挑戦 (介護・依存から自立へ)

主催

NPO 法人バイオフィリアリハビリテーション学会

後援

神奈川県 神奈川県医師会 財団法人テクノエイド協会 社団法人全国老人保健施設協会 社団法人日本理学療法士協会	日本経済新聞社 社団法人日本作業療法士協会 日本生活支援工学会 日本リハビリテーション工学協会
--	--

プログラム

第1日 平成17年8月6日(土)

9:00～受付

9:20～9:30 開会式

開会挨拶 慶應義塾大学環境情報学部教授 武藤佳恭

9:30～12:00 基調講演

座長 川崎医科大学附属川崎病院リハビリテーション科部長 森田能子

基調講演Ⅰ 神経・筋促通法の回顧と新たなる挑戦

福井罔彦 介護老人保健施設湘南の丘施設長 (医学博士)

基調講演Ⅱ 急性期病院におけるタキザワ式リハの実際 (新たなる挑戦を期待して)

滝沢恭子 介護老人保健施設湘南の丘理学療法士 (大会副会長)

基調講演Ⅲ 高齢者と運動

牧田光代 新潟医療福祉大学教授

基調講演Ⅳ リハビリテーション医学の現在・過去・未来

渡部一郎 青森県立保健大学理学療法学科教授

ご挨拶・講演

村尾俊明 (財団法人テクノエイド協会常務理事)

12:40～13:40 昼食・総会

会長挨拶・ご挨拶

木村哲彦 (国際福祉大学教授・日本医科大学客員)

川合秀治 社団法人全国老人保健施設協会副会長

14:00～16:45 公開市民講座

座長 滝沢茂男 バイオフィリア研究所有限会社研究員

講演Ⅰ 武藤佳恭 慶應義塾大学環境情報学部教授 (大会副会長)

テーマ : 最新の ICT 動向

講演Ⅱ 浜野美代子 東京家政学院大学名誉教授

テーマ : 地域における健康教育 (自分の健康は自分でまもろう)

休憩

講演Ⅲ 塚田邦夫 高岡駅南クリニック院長 (東京医科歯科大学ストーマ外来)

テーマ : 皆で予防し治す褥創 (床ずれ) <栄養・体圧分散・局所療法の最新の考え方>

17:00～17:30 一般演題Ⅰ

座長 縄井清志 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校理学療法学科

1. 歩行能力評価システムの開発

木下 慶 横浜国立大学大学院システム統合工学専攻

2. 仮題 (創動運動能力測定器による機能評価)

小松祐輔 横浜国立大学大学院システム統合工学専攻

17:00～17:30 一般演題Ⅱ

座長 白澤卓二（東京都老人総合研究所分子老化グループ研究部長）

3. いつまでも自立していくための食生活へのアプローチ ～スリーステップアセスメントを用いた食支援の実践～

佐藤 悦子 昭島市高齢者在宅サービスセンター愛全園所長

4. リハビリテーションによる回復度評価データの標準化の為のデータベース構築と分析

滝沢茂男 バイオフィリア研究所有限会社

18:00～ 閉会式

尾澤潤一 独立行政法人国際協力機構経済開発部技術審議役

19:00～ 交流会（予定）

大会会場

所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス大学院棟（「T1 1」、「T1 2」）

大会参加費 大会会場受付でお支払い願います（公開市民講座は無料です）

会員 3,000 円 一般 5,000 円 学生無料（予稿・論文集代金 1,000 円）

○ 会場近辺には食事箇所がなく、必要な方はお弁当を用意いたします。（700 円）

交流会

参加申込み当日【8月6日（土）大会会場受付でお支払い】

藤沢大会事務局・問い合わせ

〒251-08741 神奈川県藤沢市善行 7-5-4 バイオフィリアリハビリテーション学会内

学会事務局（バイオフィリア研究所内研究会担当：青木信夫）

TEL：0466-81-0204 FAX：0466-81-8815

aoki@civilnet.org : <http://www.biophilia.info/fujisawa/>

申込み締切日

2005年7月30日

*公開市民講座参加希望者もお申込ください。当日参加も可能ですが満員の場合おことわりすることがあります。研修会は満員になり次第締め切ります。

参加等の申込みに関する問い合わせは大会事務局へ。

国際学会は2004年9月23日にドイツ・ベルリンで実施致しますので、今回通訳（手話通訳含む）はありません。ベルリンにおける第4回国際大会（学会）に参加ご希望の方は学会事務局へお問い合わせください。

宿泊

宿泊が必要な方は学会事務局へお問い合わせください

第2日（研修会）

平成16年8月7日（日） 講義：午前9：30～12：00 午後1：15～5：00

研修会会場

所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（「T1 2」）

研修会参加費 事前受付け 一般 25,000 円

(含まれるもの： 当日分の昼食費・教科書代・受講料・湘南台駅から研修会場までの移動経費)

研修会時間割

8月7日日曜日	表題	担当者	8月8日月曜日	表題	担当者
9:30~10:45	タキザワ式について	牧田光代	9:30~	宿舎より移動	
11:00~12:00	評価について	森田能子	10:00~12:00	実地研修・老健施設におけるリハビリテーションの実際	滝沢恭子
昼食	移動		この日はオプションです。		
2:00~4:00	ロールプレイ	和田里佳			
4:30~5:00	終了後 講習証授与・閉会式 木村哲彦				

参加申込みについて、(HP ページ、電子メール又は葉書・FAX による申込み。)

表題に参加申込と記入し、氏名、勤務先、勤務先・連絡先住所、電話番号、参加希望講座を、葉書に記入の上郵送するか又は FAX で申し込んでください。様式は問いません。(FAX : 0766-81-8815)

電子メールでも、上記を記載し、お申しいただけます。(宛先 aoki@civilnet.org)

www.biophilia.info/fujisawa には申し込みページを用意してあります。

大会会長 福井圀彦

神経・筋の回復と可塑性については、この 50 年ばかりの間に偉大な進歩を遂げており、リハ領域でもその理論は脳・脊髄一筋疾患にたいして愛用されるようになった。私が神経・筋一促通学を学び始めたのが昭和 35~40 年代であったからすでに 40 年ばかりが経過している。

片麻痺患者を例に 40 年昔と現在と比べてみてどうであろうか？ 神経・筋促通法の理論や手技が長足の進歩を遂げた今日、さぞや片麻痺の改善はよくなっているかと思つて診察をすると、これが昔とほとんど変わっていないのである。言いかえれば神経筋促通法が利いているという感じを受けないのである。どこかで何かが間違っているのではないか？ 単純な関節、筋運動の積み重ねとみていたリハ運動学が、神経細胞、ニューロン、シナプス、筋などで構成される複雑なネットワークによってコントロールされている一種の美学に魅せられて、大事なものを見落としていたということはないだろうか？

考え直して検討してみてもどうであろうか？

例えば、患側優先で行っていた神経・筋促通法を健側優先に切りかえるのではどうだろうか？

日本でもいち早くそれに気付いてよい成果を挙げている先人も何人かいたのであるが、オーソドックス派からは、総反撃をくらった歴史があるし、今でも残っている。

患側優先で行うメリットは、確かに総合的な協調運動を円滑に行い、運動パターンの正常化には好都合であるが、デメリットとして実用につながるまでに時間がかかり、その間に健側・躯幹の廃用をきたすことにあった。しかし、健側優先の神経・筋促通法では患側優先の場合よりも健側であるため放電による促通の効果が大きいとみられ、途中で廃用状態で臥床継続状態になってしまうは少なく、

多少格好は悪くても実用につながる可能性が大きくなる。老人では格好よりも実用である。多少格好は悪くても実用を取って介護予防に努めるべきであろう。
今回はこのあたりをもう一度振り返って検討してみたいと考える次第である。

健側主導のリハビリの重視(患側主導のみでよかったのでしょうか)